

平成 26 年度 学校関係者評価報告書

上宮中学校・高等学校
学校関係者評価委員会

(1) 平成 26 年度 各部署の重点目標と評価項目について

上宮中学校・高等学校では、建学の精神と教育目標の基、各教科・各学年・各分掌で、年度当初に「目標」を設定し、目標達成の為に「重点課題」を設定している。年度末には、それぞれの「重点課題」について、A～D の評価を行い、「成果と課題」を表すことにしている。これをまとめたものが「学校評価の冊子」である。この冊子を見ることによって、各教科・各学年・各分掌の取り組みとその評価・成果・課題を一覧することができる。平成 26 年度の評価を見ると C の評価も多く見られるので、更に一層の取り組み努力が必要であるとの説明があった。

各教科・各学年・各分掌で「目標」や「重点課題」を設定し、それを評価しているのは、大変よいことであり、続けていってほしい。

ただ、目標や重点課題として、もっと具体的な、国公立大学〇名合格とか、関々同立〇名合格とか、模試の平均偏差値を〇にするとかといった具体的な数値目標も必要ではないか。

(2) 平成 26 年度 教員個人の自己評価について

各教科・各学年・各分掌で設定した「目標」および「重点課題」に従い、各教員が、個人目標シートを作成している。個人目標シートでは、学年・教科・分掌での「本年度の取り組み課題」を設定し、「課題解決の手立て（方法）」を策定し、年度中期と年度末において、その遂行度と達成度をそれぞれ A～C の評価で自己評価を行っていることの説明があった。

個々の教員が、それぞれ課題を設定し、その課題に取り組んでいくことは、教員の資質の向上にもつながるので、非常によいことである。更に続けて欲しい。

(3) 平成 26 年度 授業アンケートについて

平成 22 年度から 1 学期末（7 月）と 2 学期末（12 月）に生徒に対して授業アンケートを実施しており、今年度で 5 年目となった。アンケート結果は集計されて、各教員個々に返却されている。各教員は、そのアンケート結果を基に、更なる授業の改善につなげている旨の説明があった。

アンケート結果を基に、各教員が個人的に授業の改善に結びつけるだけでなく、授業見学や研究授業を通じて、もっと積極的に授業の改善に取り組んでいくべきである。

(4) 平成 26 年度 生徒・保護者・教員アンケートについて

平成 22 年度から同じアンケート項目で、生徒・保護者・教員に対してアンケートを行った旨の説明があった。

保護者のアンケート結果では、毎年「学校生活」、「担任相談対応」、「担任指導」、「よい友人関係」などの項目が比較的評価が高い点は評価できる。ところが学習面の「学習習慣」、「授業工夫」、「学習意欲」、「授業の進み方」などの項目の評価が毎年、低い点が非常に問題である。改善できていないのではないか。また、生徒のアンケート結果でも、これらの学習面の評価が低い。早急な取り組みの必要があるのではないか。

その点については、平成 26 年度 2 学期から、放課後に大学合格講座を希望者に対して開講し、好評を得ている旨説明し、平成 27 年度のアンケート結果にどのように反映されてくるかを見ていきたいとの説明補足が校長よりあった。